

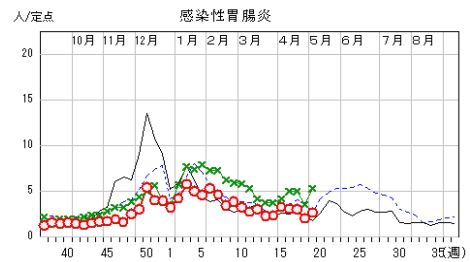
# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2023年第19週 2023年5月8日（月）～ 2023年5月14日（日） 2023年5月18日作成

☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

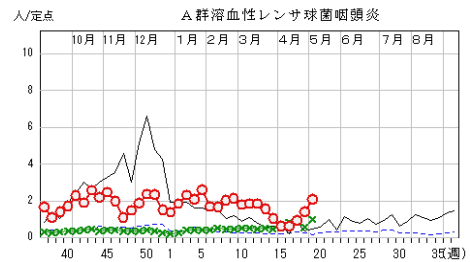
## （1） 感染性胃腸炎

第19週の報告数は116人で、前週より27人多く、定点当たりの報告数は2.64であった。  
年齢別では、2歳（19人）、5歳（17人）、4歳（14人）の順に多かった。  
定点当たり報告数の多い保健所は、県央保健所（5.14）、佐世保市保健所（4.33）、上五島保健所（3.00）であった。



## （2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第19週の報告数は92人で、前週より30人多く、定点当たりの報告数は2.09であった。  
年齢別では、4歳（16人）、5歳（12人）、2歳（11人）の順に多かった。  
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（13.80）であった。



## （3） 新型コロナウイルス感染症

第19週の報告数は135人で、定点当たりの報告数は1.93であった。  
年齢別では、10～14歳（22人）、40～49歳（17人）、20～29歳および80歳以上（13人）の順に多かった。  
定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（5.67）、県北保健所（3.25）、壱岐保健所（3.00）であった。

○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

☆トピックス・季節情報

### 【感染性胃腸炎】

第19週の報告数は116人で、前週より27人多く、定点当たりの報告数は2.64でした。地区別にみると県央地区（5.14）、佐世保地区（4.33）、上五島地区（3.00）は他の地区より多くなっています。今後も予防に努めましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第19週の報告数は92人で、前週より30人多く、定点当たりの報告数は2.09でした。地区別にみると県南地区（13.80）は他の地区より多く、警報レベル開始基準値「8.0」を超えていますので注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第19週の報告数は135人で、定点当たり報告数は1.93でした。地区別では、対馬地区（5.67）、県北地区（3.25）、杵岐地区（3.00）が他の地区より多くなっています。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。令和5年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が「新型インフルエンザ等感染症」から「五類感染症（定点把握）」に変更されました。

今後とも場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシの活動が活発な時期です。ご注意ください！

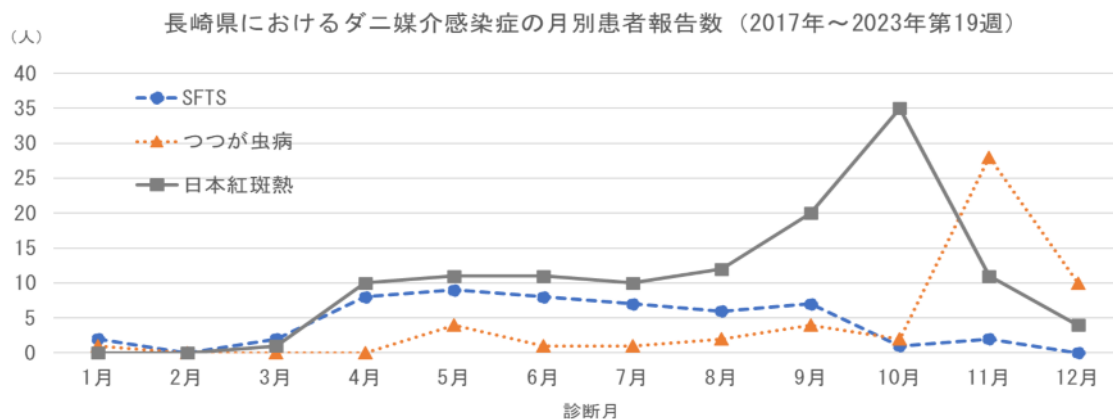
マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。

マダニ類は、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などを媒介し、ツツガムシ類はその名のおりつつが虫病を媒介します。

2023年第19週までに、県内では4例のSFTS、3例のつつが虫病、3例の日本紅斑熱の患者が発生しています。

春から秋（3月から11月）にかけては、マダニ等の活動が活発になる時期です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避けて感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

（参考）長崎県感染症対策室 ダニ媒介性感染症「ダニ媒介性感染症の予防」  
<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansenshou/tick/>



☆トピックス：梅毒の報告数が急増しています

梅毒は梅毒トレポネーマの感染によって生じる性感染症で、感染者との粘膜の接触を伴う性行為感染や妊婦の胎盤を通じて胎児に感染する（＝先天梅毒）経路があります。

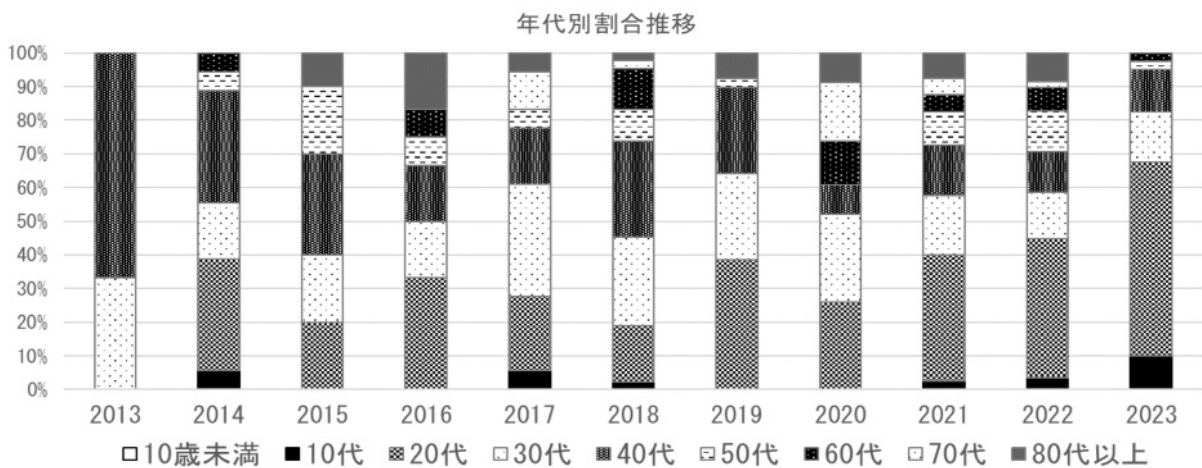
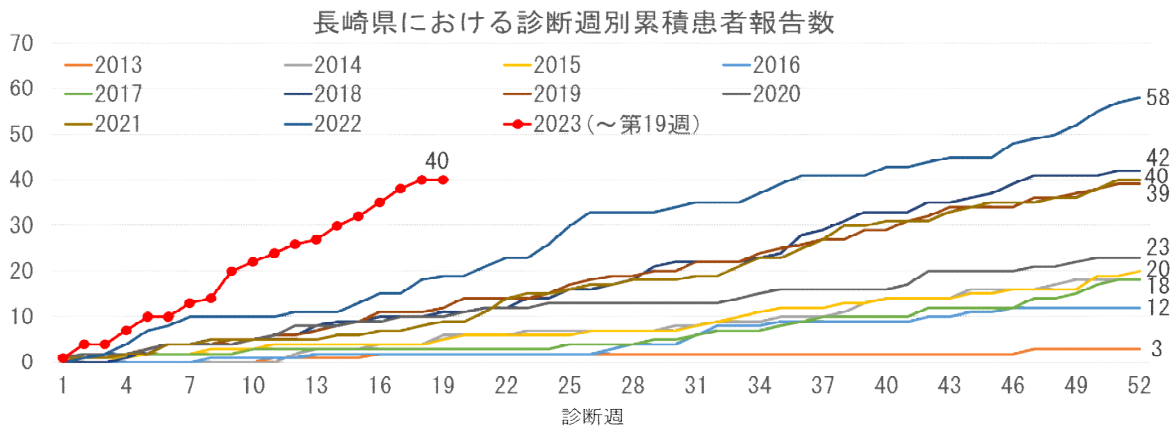
感染後3～6週間の潜伏期を経て、初期には感染部位の病変（初期硬結、リンパ節腫脹等）、続いて血行性に全身へ移行して皮膚病変（バラ疹や梅毒疹等）や発熱、倦怠感等の多彩な症状を呈するようになります。無治療の場合、感染から数年～数十年経過すると心血管梅毒、神経梅毒に進展します。

長崎県では2023年第19週までに40名の報告があり、過去10年の中で最速で報告数が増加しています。年代別にみると、20代の患者が全体の約6割を占めています。また、妊娠中の2名の報告もあがっています。

梅毒は早期診断、早期治療が重要ですので、感染が疑われる症状がみられた場合、感染の不安がある場合には、早期に医療機関を受診しましょう。また、県内の保健所では、無料の相談・検査を受けます（事前の連絡・予約が必要）。感染を予防するには、コンドームを適切に使用することや感染のリスクとなる不特定多数の人との性的接触を避けることが重要です。

（参考）国立感染症研究所 梅毒（外部のページに移動します。）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis.html>



☆新型コロナウイルス感染症の発生状況（2023年第19週：5月8日から5月14日）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2023年5月8日より、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における類型が定点把握対象の5類感染症に変更されました。

5月8日以降は、県内の人口等を勘案して選定された70医療機関（インフルエンザ/COVID19定点）から、1週間（月～日曜）にCOVID-19と診断された患者数が週に1回報告されます。報告のあった県全体の患者数を集計し、本週報で毎週（原則木曜日）に公表しています。

2023年第19週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、「1.93」でした。保健所別では、対馬保健所が多くなっています。また、年齢別では、10歳未満が多くなっています。

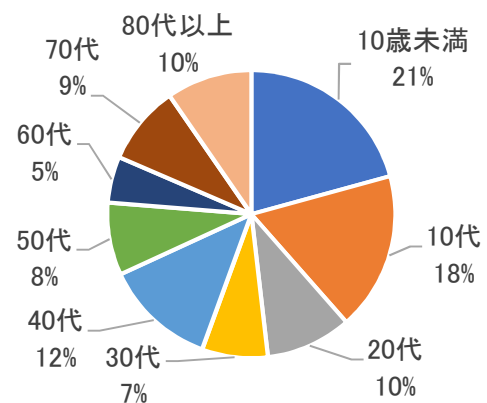
今後も場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

	長崎県	長崎市	佐世保市	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	壱岐	対馬
報告数	135	30	15	9	21	17	13	1	3	9	17
定点数	70	17	11	6	11	8	4	4	3	3	3
定点当たり報告数	1.93	1.76	1.36	1.50	1.91	2.13	3.25	0.25	1.00	3.00	5.67

性別割合



年代別割合



保健所別年代別割合

